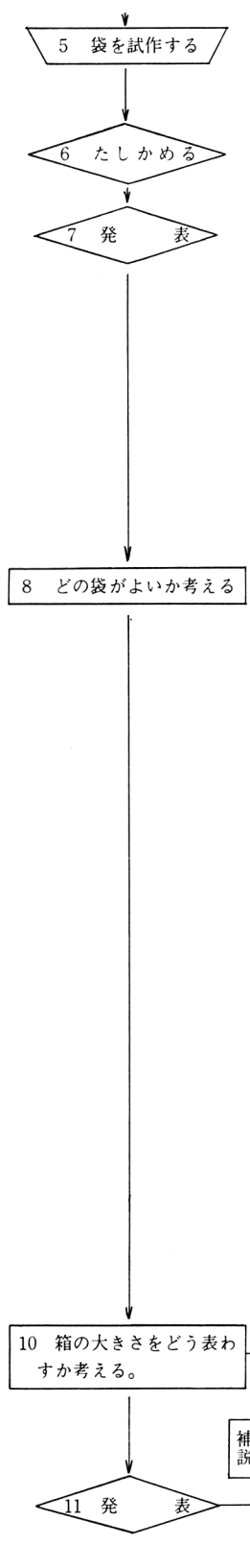


課題を解決する



- 20 ○作った袋に箱を出し入れして、出来具合をたしかめてみよう。友だちの袋も観察し合ひましょう。
- 30 ○ちょうどよい大きさの袋に仕上がった友だちに、作り方を発表してもらいましょう。  
(発表の要点を板書する)
- たて } 箱=つつんだ
  - 横 } 高さ
  - 少しゆるくした。
  - のりではり合わせた。
- ここにある袋をみて、どれがさいほう箱にあった大きさか考えてみましょう。
- では、箱を実際に出し入れしてたしかめてみましょう。
- どのぐらいゆるくなっているか、グループ毎にはかって調べてみよう。結果をカードに書きなさい。(実測のしかたを説明)
- ゆるくなっているところを「ゆるみ」といいます。
- わきと、口をしめるところのゆるみは、どのぐらいがいいかカードから考えてみよう。
- ゆるみは、よくわかったけどもともになる箱の大きさはどうしたらよいだろう。  
(横まわり×縦まわりの布で箱をつつむ。)
- (横まわり× $\frac{縦まわり}{2}$ の布でつつむ。)
- 袋に箱を入れたり出したりにしてたしかめ、さらにグループの友だちの袋を観察しあう。
- グループの中で、ちょうどよい大きさに作った友だちを推せんする。友だちの発表を聞く。
- たて、横、高さをはかってふたと底とわきを書いて、少しゆるくしてはり合わせた。
  - 箱をつつんで少しゆるくして、のりではった。
  - 口をしめるところは、少しゆったりとした。
  - その他
- 標本を外見から観察する。
- ②は長細すぎる。
  - ③は、だぶだぶだな。
  - ⑥は、口のところがきゅうくつそうだ。
- グループ毎に箱の出し入れをする。
- ①も、口のところが少しきついね。
  - ⑤も、だぶだぶです。
  - ④は、ちょうどいい。
- 1袋ずつ分担してグループで実測し、カードに記入する。
- わきのゆるみは1cmぐらい口をしめるためのゆるみは、8cmぐらいがいい。
- 箱の大きさの表し方を考える。
- 縦×横が2つで、あとまわりを加える。
  - 縦まわりと横まわりでもいいんじゃないかな。
- 教師の作業を見る。
- 横まわり× $\frac{縦まわり}{2}$ で
- 行できることを期待している。
- ◎袋作りの準備物  
障子紙、のり、ホッチキス、セロハンテープなど
- ここでは「ひも」をつけないで、手で袋の口をつぼめるようにさせ、口をしめるゆるみに気づかせる。
- ◎袋の標本の条件は、つぎのようにする。
- ①口のゆるみが足りない(3cm)
  - ②口をしめるためのゆるみが多すぎる(15cm)
  - ③わきのゆるみが多すぎる。(6cm)
  - ④適切なゆるみ
  - ⑤わきのゆるみが多すぎる。(3cm)
  - ⑥口をしめるためのゆるみが少ないすぎる。(0.5cm)
- 標本を外見からと、実際の出し入れと、さらに「ゆるみ」の実測の3点から観察することによって適切なゆるみの必要と分量をよく理解させる。
- 「口をしめるためのゆるみ」約8cmは、箱の幅15cmの約半分であることに気づかせ、一般化がはかれるようにする。
- どのぐらいのゆるみがよいか、わかったか。(エ)
- ◎横まわりと縦まわりの関係で示される布を2枚準備する。
- 横まわり×縦まわり
  - 横まわり× $\frac{縦まわり}{2}$
- 横まわり×縦まわりでは箱の2つ分の大きさになることを視覚に訴えて